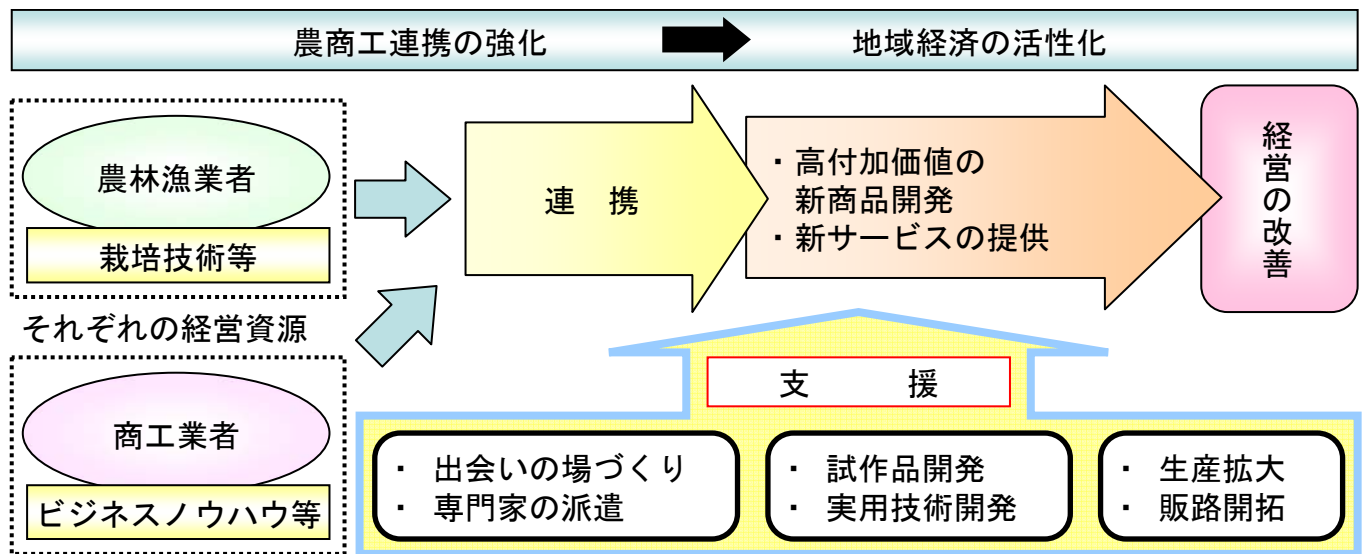


(3) 農商工連携等を通じた農村地域の活性化

- 日本経済は、急速な悪化が続いており、なかでも飲食店・宿泊業の業況感は低迷が顕著。また、食料品の業況感は低迷が長引く状況。
- 農山漁村の活性化を図るに当たっては、地域経済の中核をなす農林漁業や中小企業が産業の壁を越えて有機的に連携し、互いの有するノウハウ・技術等を活用することで、両者の有する強みを発揮した新商品の開発や販路開拓等を促進することが重要。
- 農商工等連携促進法(2008年7月施行)をはじめとする支援により、農村地域の人材やノウハウをフルに活用し、創意工夫を発揮した多様な農商工連携の取組が広がることによって、雇用の創出、所得向上に結び付き、地域経済の活性化が実現されることが期待。
- 農業と関連産業の連携では、食品製造業はもとより、外食や観光も含めた多様な産業との連携が不可欠。空き店舗の増加・常態化が全国的な課題として顕在化する街中商店街との連携による地産地消の推進を図る取組も進展。

農商工連携の意義



資料：農林水産省作成

<農商工連携の取組>

商店街活性化で連携

のしるし
秋田県能代市

商店街の空き店舗に農産物や加工品を持ち寄り、夕市を開催

農家グループが、商店街の空き店舗で定期的に夕市を開催。農家が自ら農産物や加工品を持ち寄り、販売。勤め帰りの人や周辺の主婦らの行列ができるほどの人気。地元郵便局前で直売を行っていたころに比べ、販売額は2倍に増加。



ブランド化で連携

たかしまし
滋賀県高島市

健康果実「アドベリー」の産地化と地域ぐるみのブランド化

地域が一体となって、稀少果実であるニュージーランド産のボイズンベリーを地域名「安曇川」を冠した「アドベリー」として産地化。栽培指導と果実の一元管理、新商品開発と専門家による認定を実施。百貨店、道の駅、地元スーパー等で販売。



IT導入で連携

みやざきし
宮崎県宮崎市

IT技術を活用した牛の繁殖経営の安定化

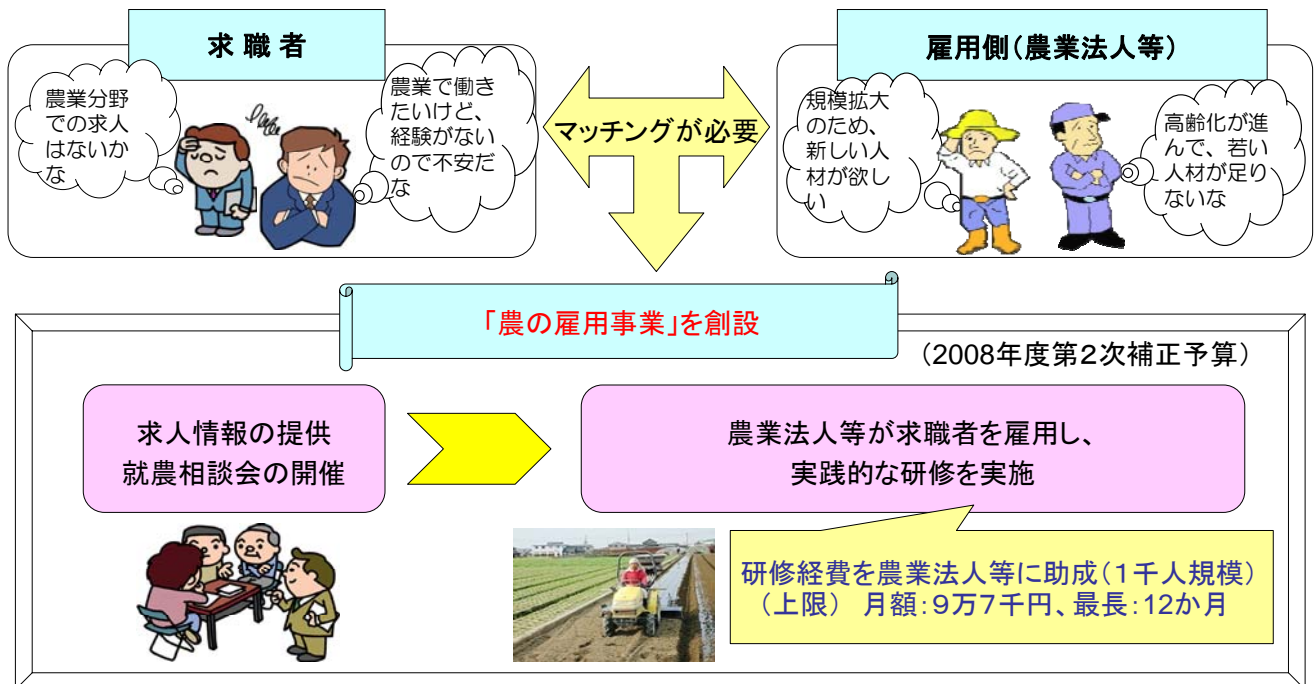
通信機器製造業者、開発販売業者、大学・研究機関、酪農組合が連携して、牛の発情を発見できる装置を開発。適時の人工授精と分娩間隔の短縮を実現することにより、農家の経営安定に貢献。全国で800戸の畜産農家で導入済み。



(4) 農村における雇用創出への取組

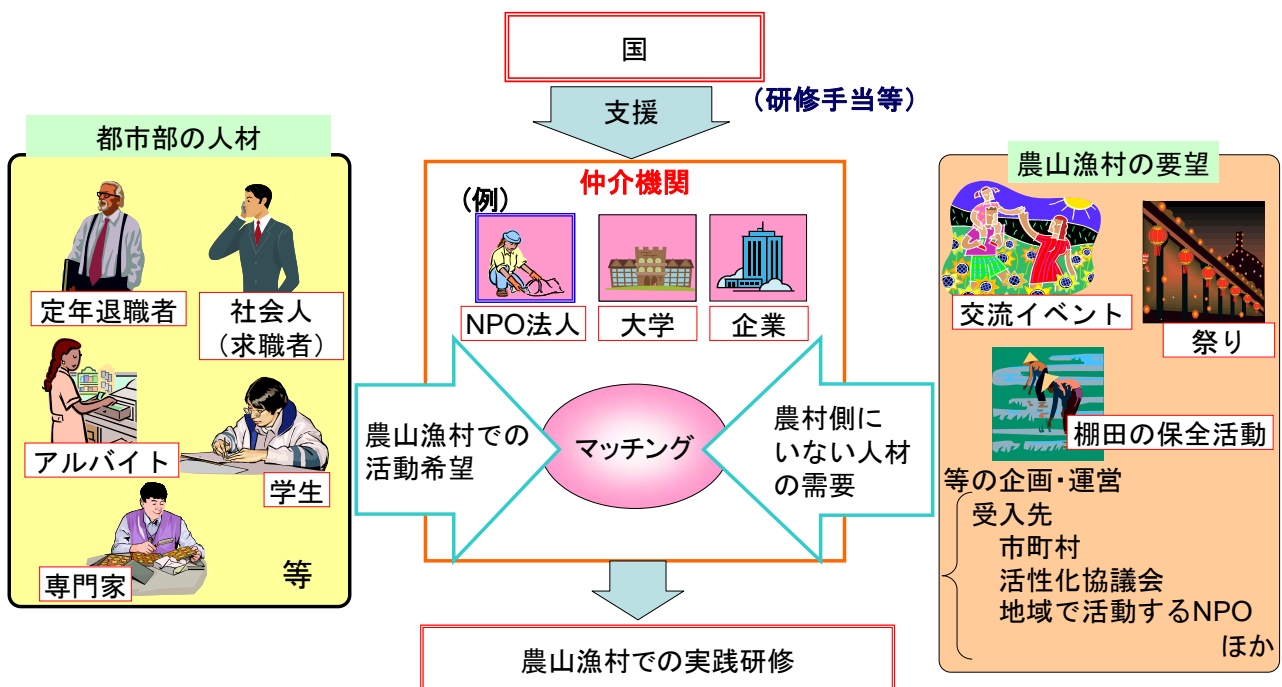
- 世界的な金融危機の影響を受け、我が国の景気は急速な悪化が続いており、厳しい状況。また、有効求人倍率が低下するなど、雇用情勢は急速に悪化しつつある。
- 農林水産業は潜在的な労働力の需要が期待でき、農山漁村における雇用創出の取組を機動的に進めるため、新規就業支援をはじめとする雇用対策を強力に推進。農業では、就農意欲のある人材の農業法人等での実践的な研修を支援する「農」の雇用事業が開始。
- 農村地域の活性化に貢献するリーダーとなり得る人材を育成するため、NPO 法人や大学、企業等の仲介により、農村での活動や定住に関心を持つ都市部の人材と、人材を求める農村を結び付け、農村での実践研修を行う「田舎で働き隊！」事業が開始。

「農」の雇用事業の概要



資料：農林水産省作成

「田舎で働き隊！」事業の概要

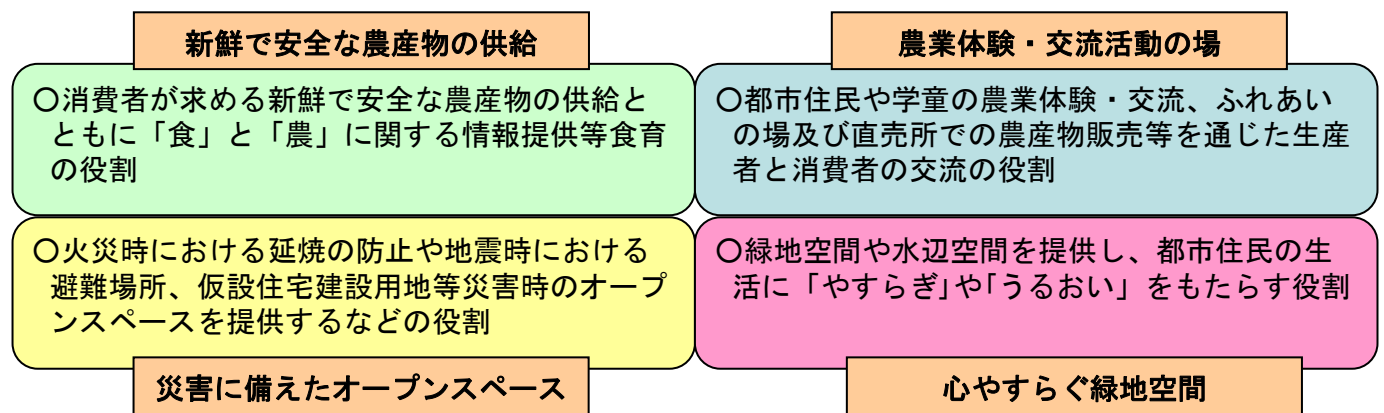


資料：農林水産省作成

(5) 共生・対流の促進を通じた農村地域の活性化
(都市農業の重要性)

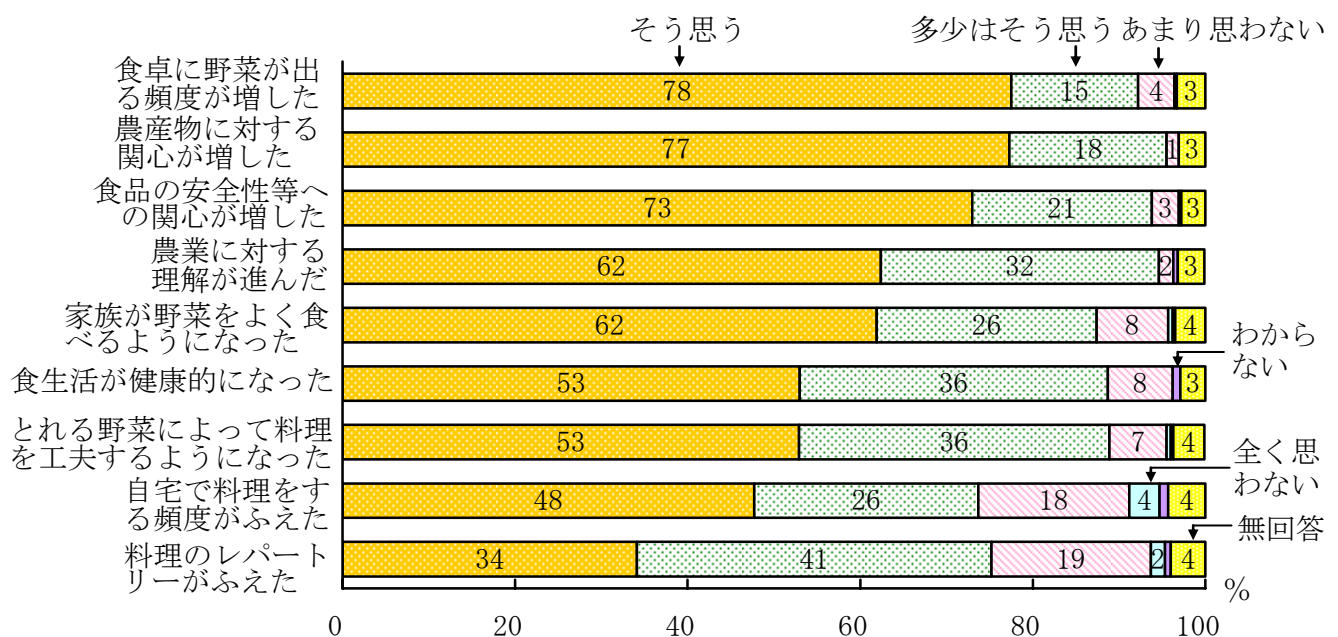
- 都市農業は、都市住民への新鮮で安全な農産物の供給だけにとどまらず、市民農園や農産物直売所を利用した農業体験・交流活動の場、災害に備えたオープンスペース、心やすらぐ緑地空間の提供や景観の形成、都市部の気候緩和といった様々な役割を發揮。
- 近年、市民農園は、農業を体験することを通じた健康増進や生きがいのづくり、ふれあいの場として、年々増加。2007年度末には全国で3,273農園と過去5年間で16%増加。
- 農業体験や園芸療法を行う学童農園や、福祉法人が医療的効果を目的として福祉農園に取り組みほか、市民農園の開設が耕作放棄地の解消にも役立つなど、多様な形態での取組が進展。
- 農業体験農園には、「食卓に野菜が出る頻度が増した」など、考え方や生活に変化をもたらす副次的効果が生じるとともに、開園した農業者の農業経営を安定させる効果も發揮。

都市農業の役割



資料：農林水産省作成

農業体験農園に入園する前との考え方や生活の変化（複数回答）

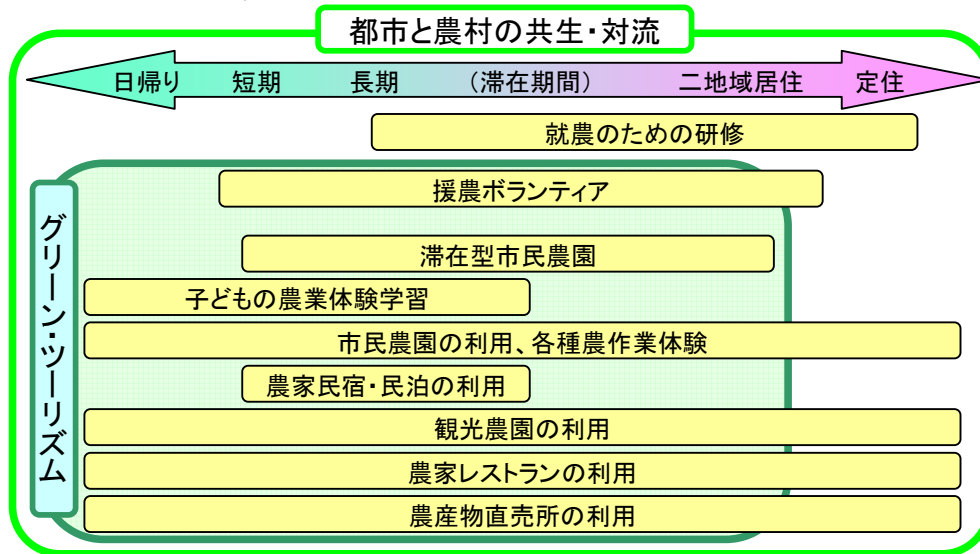


資料：東京都農業会議「農業体験農園の取り組み実態と評価に関する調査」（2008年4月公表）
注：農業体験農園に入園している680人を対象として実施（回収率84.9%）

(都市と農村の共生・対流の多様な取組)

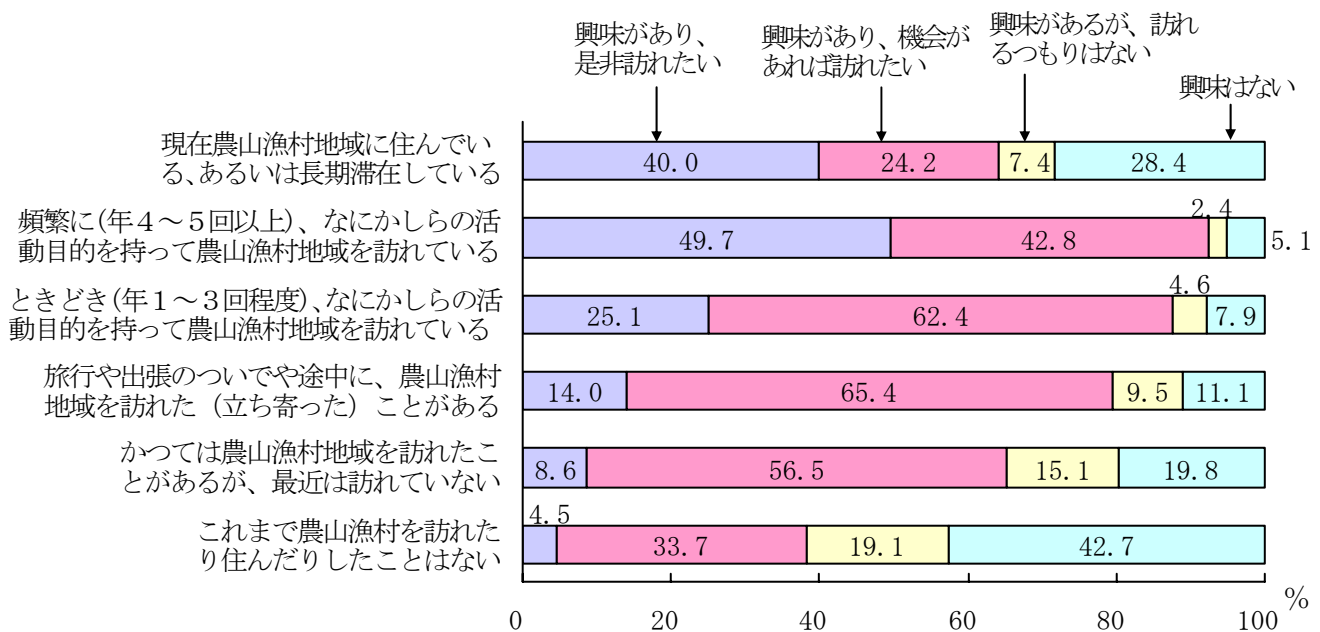
- 農村が活力を取り戻し、その役割を十分に発揮するためには、都市と農村の双方の「人・もの・情報」が絶えず行き来する、都市と農村の共生・対流の促進が重要。なかでも農村で自然、文化、人々との交流を楽しむグリーン・ツーリズムは、日帰りから長期的または定期的・反復的な滞在である二地域居住まで、様々な滞在期間で展開。
- 都市住民の7割が今後農村を訪れて過ごすことに興味があり、訪問回数が多いほど農村に対する興味や今後の訪問意向がある傾向。一方、都市住民の「農山村で農業体験や滞在を楽しむ旅」の経験者はわずか3%であり、実際の人々の動きにはつながっていない状況。
- グリーン・ツーリズムを展開するためには、農家民宿や農家レストラン、観光農園と、農業以外の観光資源や施設等とが連携し、地域全体として受入れに取り組むとともに、地域の情報を一元的に発信することが重要。

都市と農村の共生・対流とグリーン・ツーリズム



資料：農林水産省作成

農山漁村へのこれまでの訪問体験と興味・訪問意向



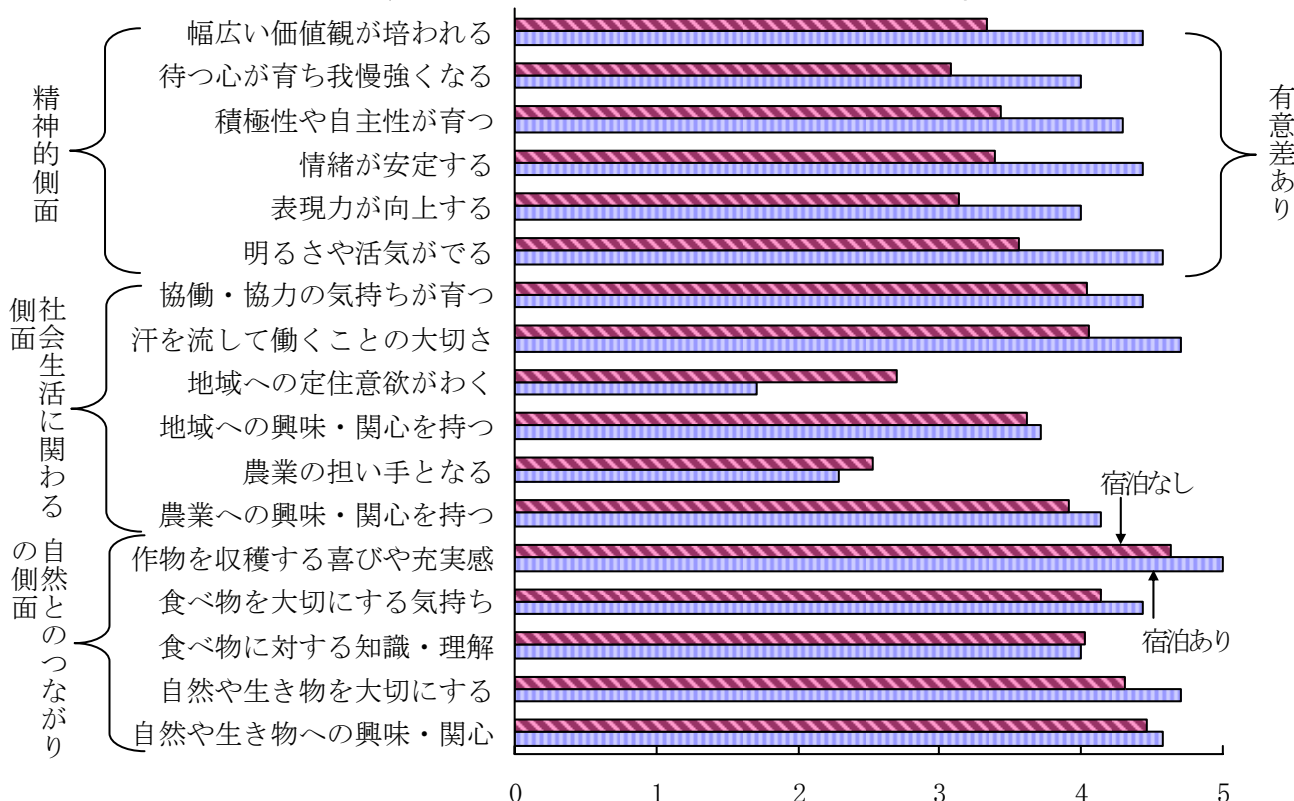
資料：国土交通省「都市農山漁村連携交流推進調査」(2008年3月公表)

注：インターネット調査会社に登録している東京23区及び全国の政令指定都市に居住する男女のモニターを対象として実施したアンケート調査(回答総数2万)

(子どもの農作業や宿泊体験の重要性)

- 子どもの農林業体験は、自然や生き物、食について関心・興味をもつとともに、怒りや不安といった感情が低下するなどの効果。特に、宿泊体験を伴う農業体験は、情緒の安定や積極性・自主性の向上等、精神的側面の効果が高い。
- 2008年度より子ども農山漁村交流プロジェクトが開始され、受入れモデル地区では1万6千人の小学生が体験活動を実施。他方、半数の市町村で子どもの長期宿泊体験活動を今後受け入れる意向があるなど、受入地域が拡大する傾向。
- 子どもの体験学習の推進には、学校側が受入地域に求めるものを熟知し、学校と、地域の農家等個々の受入主体との連絡調整を行うコーディネーターが重要。
- 小・中・高校生の宿泊体験は、受入地域に経済的効果だけでなく、子どもの喜ぶ姿により、受入農家だけでなく、地域が元気になるといった波及効果も発生。

農業体験学習の宿泊の有無と教育的効果

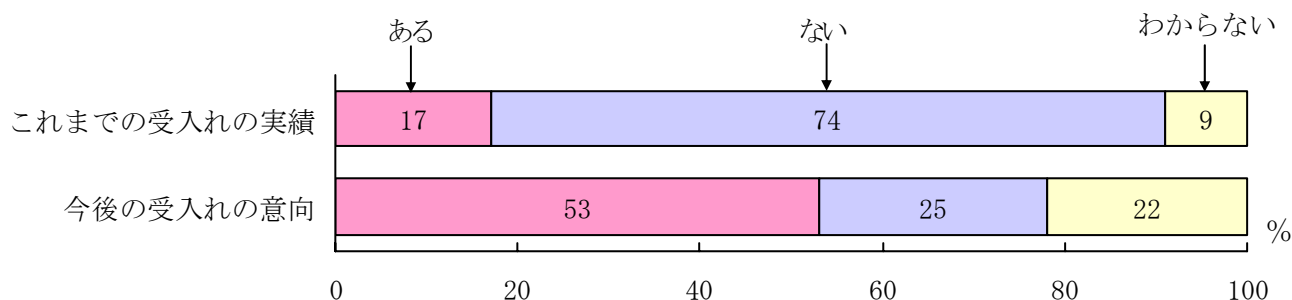


資料：(独)農業・食品産業技術総合研究機構農村工学研究所「農業体験学習の取り組み方と教育的効果の関連性に関する分析」(2006年6月公表)

注：1) 全国の公立小学校から無作為に抽出した540校と東京都内の小学校155校を対象としたアンケート調査(回答率30.2%)

2) 評価は、「そう思う・やや思う・どちらでもない・あまり思わない・そう思わない」の5段階

小学生を対象とした長期宿泊体験活動の受入の実績と今後の意向



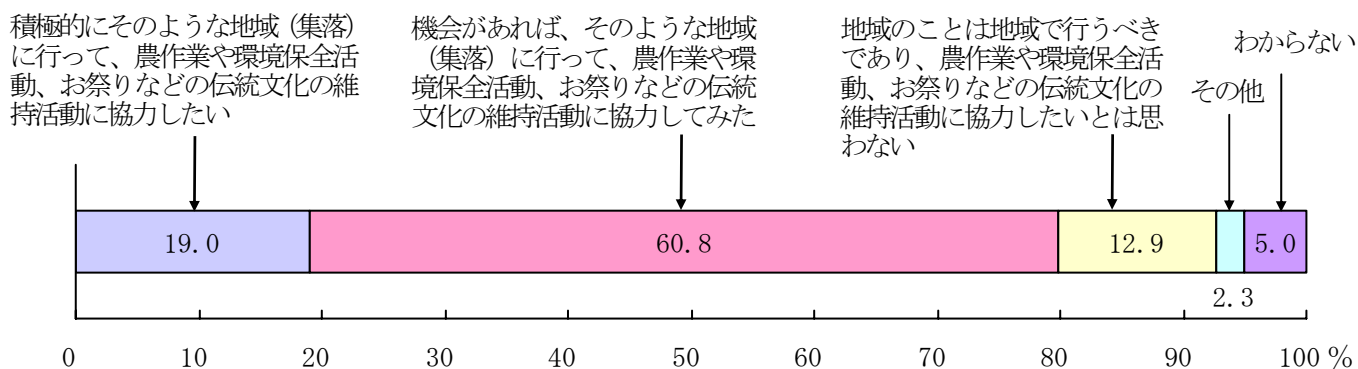
資料：国土交通省「都市農山漁村連携交流推進調査」(2008年3月公表)

注：2007年10月1日時点で過疎地域、振興山村地域、半島振興地域、離島振興地域、特定農山村地域に指定されている1,162市町村を対象としたアンケート調査(回収率45.8%)

(若者や団塊の世代を活用した共生・対流の取組)

- 都市との共生・対流の促進による農村地域の活性化を図るためには、①地域の人々を束ねる地域リーダー、②地域や資源を客観的に評価・活用できる外部専門家、③地域で実際に活動する担い手が必要であり、これらの育成や招へいに対する支援も重要。
- 活力が低下した農村地域へは、国民の8割が地域に行って農作業や環境保全活動等に協力したいと回答。このような意向をもつ都市住民を地域活動の担い手とするための環境整備が重要。
- 団塊の世代のUターンや労働力人口比率は増加傾向にあり、このような人材の経験・技術等を活かした農村地域での活躍が期待。そのためには生活環境整備のほか、就業等の機会の創出とそれらに円滑に取り組むための支援が重要。
- 我が国の人口が減少するなか、都市の住民だけでなく、都市にある自治体や大学、NPO、企業等が有機的に連携し、都市側と農村地域双方に有益な活動の展開し、それらが総じて農村地域の活性化につながる「都市と農村の協働」が重要。

活力の低下した農業・農村の維持活動に対する意識



資料：内閣府「食料・農業・農村の役割に関する世論調査」(2008年11月公表)

注：全国20歳以上の者5千人を対象とした調査(回答率62.9%)

<若者や団塊の世代の人材育成の取組>

(1) 団塊の世代の就農に向けた研修の取組

山口県では、他産業従事者やUターン者を中心に農業に興味や関心をもつ者が増加してきたことから、農業大学校等の施設を利用した就農のための研修として「やまぐち就農支援塾」を実施している。実作業体験を組み合わせたこの研修には、毎年定員を大幅に上回る応募があることから、近々退職し実家の農業を引き継ぐなど、緊急性が高い者を優先して受講者を選考している。

20歳代から70歳代まで幅広い年齢層の受講者がいるが、退職を契機とした就農予定の50歳代後半から60歳代前半が多い。これまでに300人程度の修了生を輩出しており、県内各地域で就農している。また、地域で就農後、担い手農家にステップアップするため、JAの研修との連携を図っている。

写真

(2) 将来農村地域の活性化に貢献する大学生を育成する取組

神奈川県川崎市にある明治大学農学部食料環境政策学科では、2002年度より、将来、農村地域の活性化に貢献し、指導者となることを目指す者に特別入学試験を実施している。試験はグループ討論や課題発表、個人面接等により、農業や地域に対する強い思いと、将来農村地域で活躍しその活性化に貢献したいという意欲を重視して選考する。この試験により入学した学生は、農村地域の課題に対応するために、他学科の科目も積極的に履修するなど、学習意欲も高い。また、これまでに○人の卒業生を輩出しているが○○や○○に就業し、農村地域での活躍が期待されている。

写真

農 業 (つづき)	農地	耕地面積	463 万ha	20年	ピークは609万ha(S36年) 目標450万ha(H27年)
		うち田	252 万ha	20年	ピークは344万ha(S44年)
		うち畑	211 万ha	20年	〃 272万ha(S33年)
		耕作放棄地	39 万ha	17年	H7年は24万ha
		耕地利用率	93 %	19年	ピークは138%(S31年) 目標105%(H27年)
	販売農家一戸当たり経営耕地(北海道)		19.34 ha	19年	5年前(H14年)は 16.88ha
		〃 (都府県)	1.36 ha	19年	〃 1.23ha
	農業経営	総所得	484 万円	19年	農業雑収入のうち、 制度受取金は18万円
		うち農業所得	120 万円	19年	
		主業農家総所得	548 万円	19年	
うち農業所得		425 万円	19年		
農業団体等	総合農協の数	844 農協	18事業年度	ピークは13,314農協(S25年)、 H8は2,472農協	
	農協の組合員数	932 万人	18事業年度	うち正組合員500万人、 准組合員419万人	
	農協への貯金総額	82兆2,095 億円	20年11月末	H7年は67兆6,562億円	
	農業委員会数	1,818 委員会	19年10月	H18年10月は1,843委員会	
	農業委員数	3万8,579 人	19年10月	うち女性委員数1,682人(4.2%)	
	農業共済組合等数	277 組合等	20年4月	ピークは10,907組合等(S30年)	
	土地改良区数	5,474 改良区	20年3月末	〃 13,163改良区(S36年)	
	普及指導員数	7,790 人	20年4月	〃 13,748人(S39年)	

3. 農村関係

項目		データ	年次	備考	
農 村	農村の現状	農家人口	764 万人	19年	H8年は1,176万人
		うち65歳以上	252 万人	19年	〃 298万人
		対総人口比	6 %	19年	〃 9%
		農家人口に占める高齢者(65歳以上)割合	33 %	19年	〃 25%
		総人口に占める高齢者(65歳以上)割合	22 %	19年	〃 15%
		農業集落数 ⁷	13万9千 集落	17年	ピークは15万6千集落(S30年)
		環境共生・対流	エコファーマー認定件数	17万8,622 件	20年9月末
	バイオマスタウン構想の公表件数		172 市町村	21年2月末	〃 300市町村(H22年)
	市民農園の数		3,273 農園	19年3月末	H12年3月は2,319農園
	都市農業の現状 (都市的地域の農業)	産出額 2兆7,509 億円 総農家数 69 万戸 耕地面積 128 万ha	17年 17年 17年	H7年は2兆9,938億円 〃 77万戸 〃 117万ha	

1 アルコール飲料、たばこ、真珠を除いた金額

2 国民経済計算(内閣府)

3 農業所得が主で、1年間に60日以上自営農業に従事している65歳未満の者がいる農家

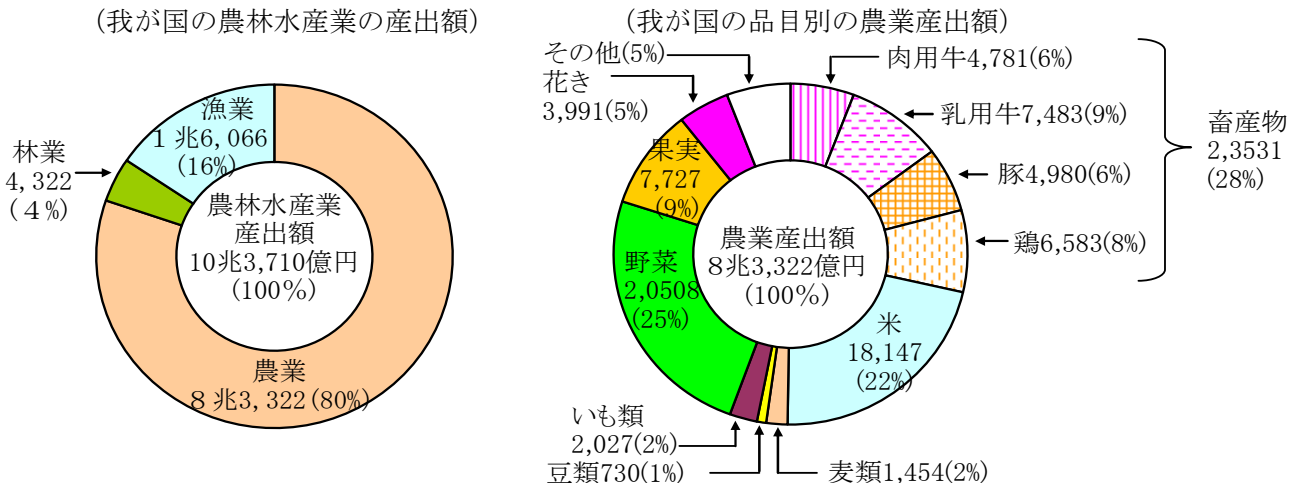
4 農業就業人口のうち、ふだんの主な状態が「仕事為主」である者

5 ()内は雇用されて就農した者(雇用就農者)を含む数値

6 市町村から農業経営改善計画の認定を受けた者

7 全域が市街化区域に含まれる農業集落を除くすべての農業集落(平成17年より調査対象の条件を変更)

我が国の農業算出額等(2006年)



資料:農林水産省「生産農業所得統計」、「生産林業所得統計」、「漁業・養殖業生産統計」を基に農林水産省で作成